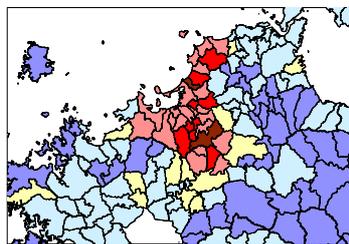
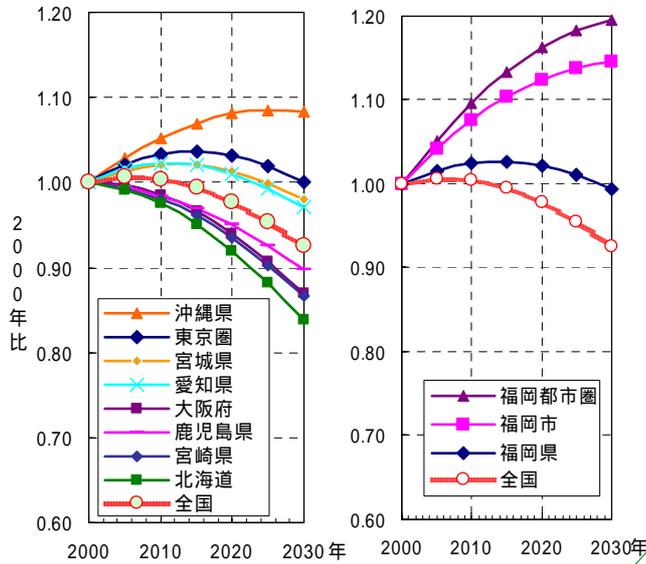


Q 3 . 人口減少の進展や少子高齢化の影響がある中で、将来の航空需要は伸びるのでしょうか。

A 3 . 将来、日本の人口は緩やかに減少していくことが見込まれていますが、福岡市や福岡都市圏の人口は当面増加していくものと考えられており、福岡空港の主要路線の相手先都道府県人口も当面増加が見込まれています。(参照：P I レポート詳細版 P 97)



北部九州の詳細図

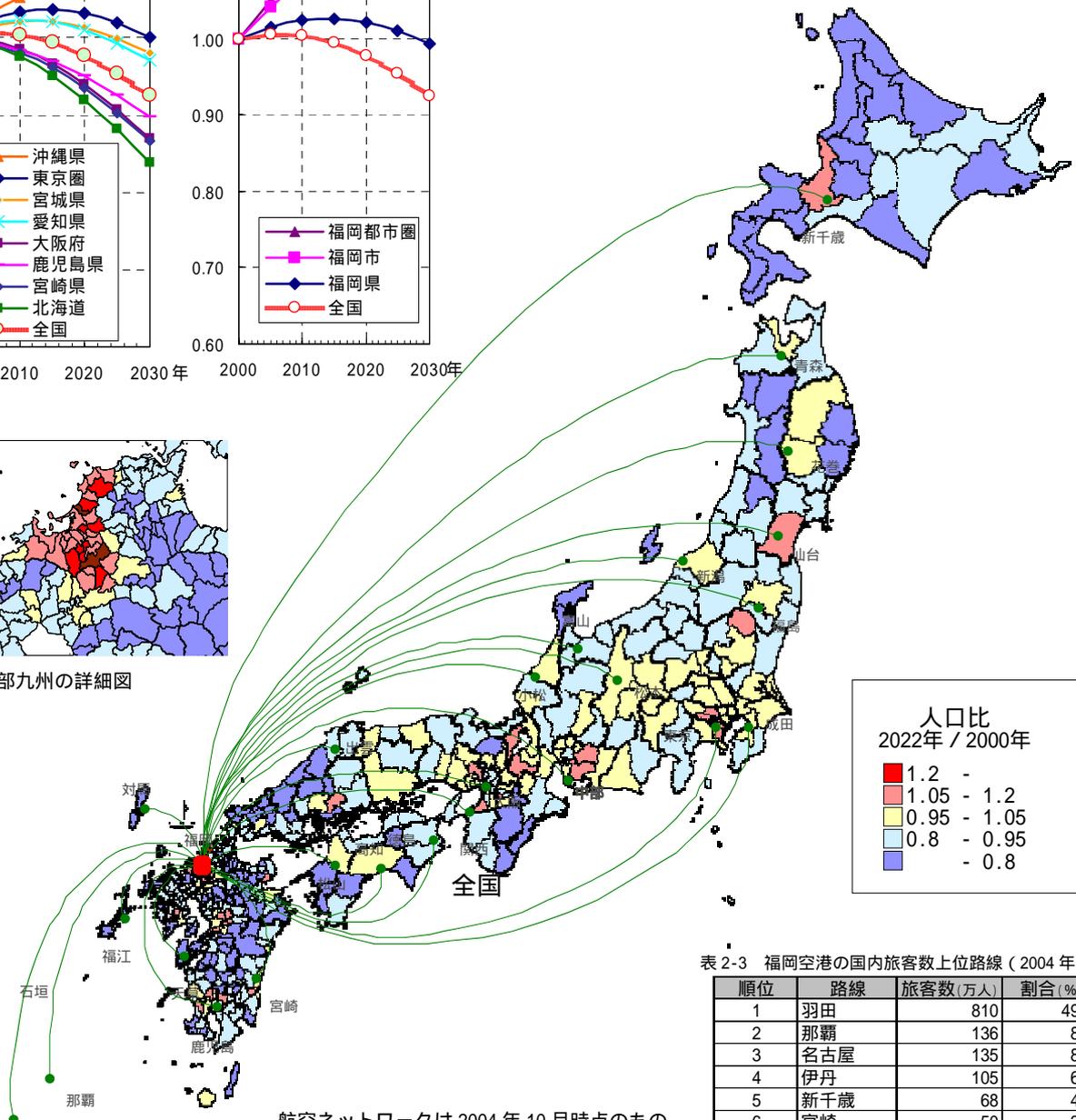


表 2-3 福岡空港の国内旅客数上位路線 (2004 年度)

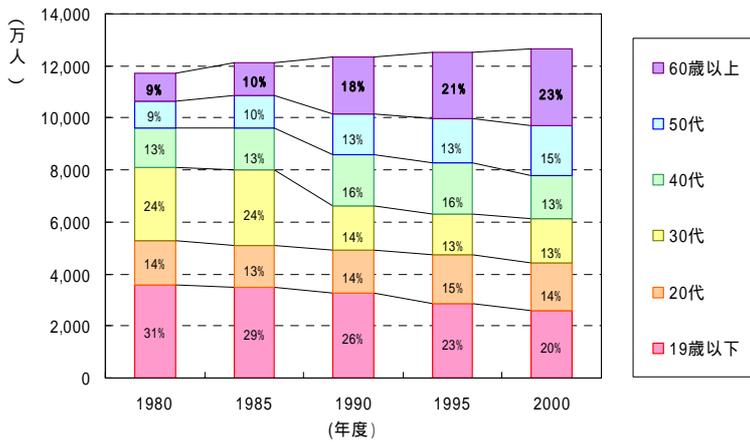
順位	路線	旅客数(万人)	割合(%)
1	羽田	810	49.6
2	那覇	136	8.3
3	名古屋	135	8.3
4	伊丹	105	6.4
5	新千歳	68	4.1
6	宮崎	50	3.1
7	関西	48	3.0
8	鹿児島	34	2.1
9	仙台	33	2.0
-	その他	214	13.1
合計		1,633	100

航空ネットワークは 2004 年 10 月時点のもの

資料：「日本の将来推計人口(平成 14 年 1 月推計)」
 「都道府県の将来推計人口(平成 14 年 3 月推計)」
 「日本の市区町村別将来推計人口(平成 15 年 12 月推計)」
 (国立社会保障・人口問題研究所)

ゾーン別の将来人口の変化率

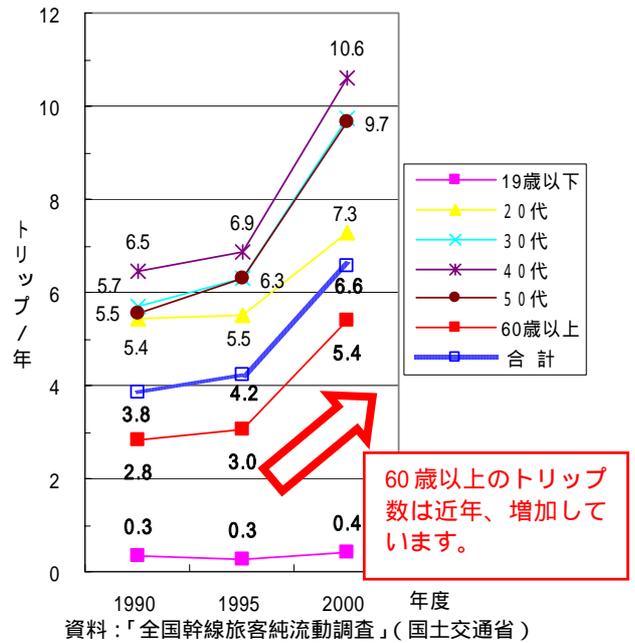
また、少子高齢化の進展による影響については、200 km以上の中長距離旅行回数(生成交通量)における1990年から2000年にかけての年齢階級別の推移では、各年代の中で60歳以上の方のトリップ数が最も大きな伸びを示していることから、この傾向を将来の年齢構成に当てはめた場合には、一人あたりの旅行回数がさらに増加することも考えられますが、今回の予測ではこのような傾向を反映していません。(参考：PIレポート詳細版P110)



- ・ グラフ中の数字は割合 (%)
- ・ 65歳以上の高齢者の割合は1980年から2000年の間に9% 10% 18% 21% 23%と急速に増加しています。

資料：「国勢調査報告」(総務省)

少子高齢化の進展(日本全人口と高齢者割合の推移)



60歳以上のトリップ数は近年、増加しています。

年齢階級別一人当たりトリップ数の推移(200km以上)